

令和2年度

事業報告書

自令和2年4月1日 至令和3年3月31日

公益財団法人中近東文化センター

令和 2 年度事業報告

I. 総務関係

1. 理事会・評議員会

(1) 令和 2 年 8 月 19 日 中近東文化センター役員室に於いて第 1 回理事会を開催し、次の議案を採択の上、審議・了承を得た。

- ① 監査報告
- ② 令和元年度事業報告及び決算について(承認)
- ③ 定款の改定について(承認)
- ④ 業務執行理事報告(報告)
- ⑤ 評議員会の召集について(承認)
- ⑥ その他報告事項

(2) 令和 2 年 9 月 3 日 中近東文化センター役員室に於いて第 1 回評議員会を開催し、次の議案を採択の上、審議・了承を得た。

- ① 議長の選出について(承認)
- ② 令和元年度事業報告及び決算について(承認)
- ③ 中近東文化センターの現在の状況について(説明)
- ④ 評議員の再任について(承認)
- ⑤ 定款の改定について(承認)
- ⑥ 業務執行理事報告(報告)
- ⑦ その他報告事項
- ⑧ 議事録署名人の選任(承認)

(3) 令和 3 年 2 月 5 日 第 2 回理事会は、新型コロナウイルス感染症の予防措置に鑑み、書面決議にて次の議案を採択の上、了承を得た。

- ① 令和 3 年度収支計画書(承認)
- ② 令和 3 年度事業計画について(承認)
- ③ 評議員会の招集について(承認)

(4) 令和 3 年 3 月 1 日 第 2 回評議員会は、新型コロナウイルス感染症の予防措置に鑑み、書面決議にて次の議案を採択の上、了承を得た。

- ① 令和 3 年度収支計画について(承認)
- ② 令和 3 年度事業計画について(承認)

2. 寄付金・助成金等の受け入れ

(1)寄付金

出光興産株式会社

(2)助成金

公益財団法人 JKA(下記Ⅱ及びⅣ(3)に充当)

公益財団法人 出光文化福祉財団

公益財団法人 住友財団(下記Ⅱに充当)

三鷹市

Ⅱ. 中近東文化に関する調査研究

1. 中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所

新型コロナウイルス蔓延のため、2020年4月10日、トルコの文化・観光省からフィールドを中心とする発掘調査、遺跡調査などを中止するようにとの強い要請があり、2020年の発掘調査を中止せざるを得なくなり、研究所内での作業を中心に行った。

(1) 第35次カマン・カレホユック発掘調査(令和2年)

(大村幸弘アナトリア考古学研究所所長)

第35次カマン・カレホユック発掘調査は、7月初旬から9月初旬にかけて、北区、南区の2発掘区で調査を行う予定だったが、新型コロナウイルスの蔓延のため発掘調査を中止。例年通り、発掘区のクリーニングを行うと同時にこれまで出土した遺物の整理、実測、撮影を行った。

(2) 第12次ヤッスホユック発掘調査(令和2年)

(大村正子アナトリア考古学研究所研究員)

第12次ヤッスホユック発掘調査は、8月下旬から11月初旬にかけて行う予定だったが、新型コロナウイルスの蔓延のため中止。前年度調査を行った発掘区のクリーニングを行うと同時に、2019年度に確認した発掘区の断面図の作成を行った。また、これまでに出土した遺物の整理、実測、撮影を行った。

(3) 第12次ビュクリュカレ発掘調査(令和2年)

(松村公仁アナトリア考古学研究所研究員)

第12次ビュクリュカレ発掘調査は、4月初旬から6月初旬にかけて行う予定だったが新型コロナウイルスの蔓延のため中止。発掘区のクリ

ーニングを行うと同時に一部の保護屋根の修復を行った。また、これまでに出土した遺物の整理、実測、撮影を行った。

Ⅲ. 中近東に関する資料の収集、保管、展示及び研究者への資料提供

1. 中近東文化センター附属博物館

(1) 展示活動

東京都の登録博物館として年間に約 180 日開館してきたが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため休館した。

加えて、例年行ってきた春の特別開館、夏の特別開館は中止した。

但し、例年三鷹市との連携事業として行っている秋の特別開館は新型コロナウイルス感染防止に関して日本博物館協会と三鷹市のガイドダンスに沿った形で開催した。展示見学に加えてミニコンサートも行った。応募者が多数あったため、三鷹市及び演奏者の好意で追加公演を行い、市民の方々に喜んでいただいた。

一方、青色のカバ(ルリカ)のレプリカ等は全国からお申し込みをいただき、通信販売の形で例年の 5 割近い販売があった。

(2) 収蔵品の目録等の整備

収蔵品目録の記載方法がマチマチであったのを統一すべく、前年に引き続き、コンピューター登録及び写真の整備を進めた。

2. 三笠宮記念図書館

(1) 閲覧等

例年博物館に倣って年間約 180 日の開館日を設けていたが、本年はコロナウイルス感染防止のため休館した。ただし、研究のために必要な本を求める若い研究者には特例として郵送というかたちで便宜を図った。

Ⅳ. 中近東に関する研究会、公開講座、広報

(1) 親子体験講座

武蔵野市とタイアップして例年行ってきた「古代オリエント探求—粘土でつくろう！中近東の宝物—」は、コロナウイルス蔓延防止のため中止となった。

(2) 地元自治体と提携しての活動

例年武蔵野市との連携で 8 月末の一週間に行っていた「夏の特別開館」は

コロナウィルス感染防止のため中止となった。三鷹市との連携で 10 月末から 11 月にかけて行っている「秋の特別開館」は上述のように開催した。特に、ミュージアムコンサートは三鷹市初め関係者のご好意で追加公演が行われ、感染症防止対策を踏まえた形で三鷹市民に喜んでいただいた。

(3)2020 年度トルコ調査報告会・第 31 回トルコ調査研究会

(大村幸弘アナトリア考古学研究所所長)

令和元年に行った第 34 次カマン・カレホユック発掘調査、第 11 次ヤッスホユック発掘調査、第 11 次ビュクリュカレ発掘調査に関する報告会、またこれらの発掘調査に関わる研究の成果を発表する研究会は、新型コロナウイルス蔓延のため中止した。

(4)アナトリア学勉強会 (大村幸弘アナトリア考古学研究所所長)

トルコにおける発掘調査、研究を行う上で、若手研究者の養成を目的として対面によるアナトリア学勉強会は新型コロナウイルス蔓延のため中止。オンラインでの勉強会をカマンのアナトリア考古学研究所と共同で定期的におこなった。

(5)フィールドコース (大村幸弘アナトリア考古学研究所所長)

日本、トルコ、アジア、欧米の学生を対象として、若手研究者、専門家の養成を目的とし、考古学、植物考古学、博物館学のフィールドコースを開催する予定だったが、新型コロナウイルス蔓延のため、フィールドでのクラスは中止。考古学フィールドコースに参加する事になっている学生を対象としてオンラインによる勉強会を行った。

(6)トルコでの調査報告会(大村正子アナトリア考古学研究所研究員)

令和元年にアナトリア考古学研究所が行った 3 遺跡に関する調査報告会を、大学、博物館関係者、地域の人を対象としてアナトリア考古学研究所で行う予定だったが、新型コロナウイルス蔓延のため中止した。

(7)ワークショップ(2020) (大村幸弘アナトリア考古学研究所所長)

前期青銅器時代の都市化に焦点を合わせたワークショップをイスタンブールのコチ大学と共同で開催する予定だったが、新型コロナウイルス蔓延のため中止した。

(8)収蔵庫修理と出土遺物整理(大村正子アナトリア考古学研究所研究員)

旧収蔵庫の補修と収蔵庫内の遺物整理を行った。ヤッスホユック、ビュクリュカレの出土遺物は研究所の新収蔵庫に収められているが、1985年～2019年までカマン・カレホユックで出土した遺物は、旧収蔵庫に収められており、旧収蔵庫の補修とともに遺物の洗い、整理を行った。

(9)遺物踏査で採集した土器片の整理と実測作業

1986年から中央アナトリアの遺跡踏査を行い、各遺跡から50～200点の土器片を採集。遺跡踏査の本報告を出版するにあたって、それらの遺物の実測と撮影を行った。

(10)研究成果等の刊行

①アナトリア考古学研究 Vol.22

(大村幸弘アナトリア考古学研究所所長)

発掘調査成果、及び関連研究の成果の公刊に関しては、カマン・カレホユック、ヤッスホユック、ビュクリュカレの概報を作成。

②カマン・カレホユック本報告書

(大村幸弘アナトリア考古学研究所所長)

公刊のための準備。特に、北区の東側断面図作成。

③カマン：カレホユック 35周年報告

(大村幸弘アナトリア考古学研究所所長)

各シーズンの主な建築遺構、遺物、空撮、調査隊員名簿、各シーズンの主なプロジェクト、主な訪問者、これまで発表された報告、論文等を掲載予定。

(11)新公益財団法人活動の広報

博物館及び図書館への来訪希望者や関心を寄せる方々への便宜を考慮して、ホームページの更新を必要の都度行った。

V. その他事業

(1)団体見学等の受け入れ

本年度はコロナウィルス感染防止のため、博物館を休館としたため、受け入れは中止した。

(2)職場訪問

例年三鷹市及び近隣の市町村の小学生・中学生の受け入れを実施しているが、本年度は博物館を休館としたため、受け入れは中止した。

(3)視覚障がい者の受入れ

昨年受け入れた三鷹在住の視覚障がいを持ったサクソ演奏家をお招きし、秋の三鷹市特別開館の折、市民向けのミニコンサートを開催した。